

一九九〇年八月二十五日  
発行刷



第73巻 第5号 史学・地理学・考古学

論 説

- 改 票 考……………谷 井 俊 仁 (1)  
蒙古襲来と鎌倉幕府……………南 基 鶴 (40)  
——対応策の性格をめぐって——  
ワルシャワ連盟協約の成立……………小 山 哲 (80)  
——16世紀のポーランドにおける宗教的寛容の法的基盤——

研究ノート

- 良渚文化と大汶口文化の図象記号……………林 巳 奈 夫 (116)

書 評

- 辻本雅史著『近世教育思想史の研究 ……藤本雅彦・桂島宣弘 (135)  
——日本における「公教育」思想の源流——』  
中村幹雄著『ナチ党の思想と運動』……………原 田 一 美 (142)  
John Wilkinson, Joyce Hill and W. F. Ryan eds.,  
*Jerusalem Pilgrimage, 1099-1185* ……小 田 匡 保 (148)

紹 介

- 清水廣一郎著『中世イタリアの都市と商人』(山辺規子)

---

史 学 研 究 会

京都大学文学部内

ルがあり、さらに都市には共同体には含まれないものの都市経済に不可欠な「外国人」がいる。その関係はルーズであることを示す。後者は、前者で示された「外国人」の中で、特に広範囲に移動して行く職人や労働者像を史料から浮かび上がらせている。

さて、清水氏がイタリア都市の中で特に研究対象とされてきたのは、ピサである。清水氏は、一四世紀ピサの公証人文書を調査され、イタリアでもその成果を刊行されている。本書に掲載された論考にもピサへの言及がしばしばみられるが、「Ⅵ 中世末期イタリアにおける公証人の活動」は、中世イタリアで活発な活動を展開した公証人について、ピサ、フィレンツェを中心とする紹介となっている。

以上、簡単に本書に盛られた清水氏の論文の内容を紹介した。このほか本書には、清水氏と同時期に大学院で研究をされた阿部謹也氏、森尾総夫氏、また中世イタリア史を研究し同時期に留学された斎藤寛海氏の鼎談が付け加えられており、本書では触れられなかった研究上の業績を含めて、清水氏の人となり、研究方向などを知るのに役立つ。ただ、あえて欲をいえば、『中世イ

タリア都市国家研究』以降に清水氏が発表された論文は他にも多数ある。たとえば、婚資についても何度か発表されているにもかかわらず、本書には所載されていない。さまざまな理由があるが、今後清水氏の業績がまとめられるチャンスがないとすれば、なんとかここにまとめて載せてほしいかと感じずには入れられない。

清水氏が、日本における中世イタリア史研究をリードされてきたことは周知のことであろう。清水氏はご自身の研究のほか、「紹介」「書評」も数多くなされ、中世イタリアに関連するさまざまな概説をこなされてきた。清水氏の業績は日本国内にとどまらず、清水氏が研究されていたピサで、共に研究を進めていたM・ルツァティ、G・ロッセッティなどの研究者からも評価されていた。三度にわたってイタリアに留学され、研究を進められていた研究の在り方は、西洋史研究のモデルとなるものだった。今後のさらに一層の活動が期待されていただけに、五〇代半ばという若さで世を去られたことはいくら惜しんでもあまりある。紹介者もまた、清水氏に教えを乞い、アドヴァイスを受けた一人である。哀悼の意を

こめて、本書が多くの人の目に触れることを願いたい。

(B6判、二三二頁、洋泉社、一九八九年  
一二月、定価二〇六〇円)  
山辺規子 京都橋女子大学助教授

日本学術会議だより

— No.17 —

平成二年五月 日本学術会議広報委員会

◇日本学術会議第一〇九回総会報告

日本学術会議第一〇九回総会(第一四期  
・第五回)は、四月一八〜二〇日の三日間  
開催された。

(中略)

今回総会では、次の勧告、対外報告が採  
択された。

①地球圏—生物圏国際協同研究計画(IGBP)の実施について(勧告)

このIGBPについては、以前から会長召集の検討会議や関係する部会、研究連絡委員会等で検討が続けられてきたが、この度、これらの検討結果を踏まえて、人間活動と地球環境に関する特別委員会のIGBP分科会が中心となって今回の勧告案を取りまとめたものである。

この勧告は、同日午後直ちに内閣総理大臣に提出され、関係省庁に送付された。

②人間活動と地球環境に関する特別委員会報告―人間活動と地球環境について

これは、人間活動と地球環境に関する特別委員会が、昭和六十三年一〇月の発足以来行ってきた審議の結果を中間報告として取りまとめたものについて、外部に発表することを承認したものである。この件に関する審議の際には、人間活動という言葉の定義、国際関係や各国の科学技術政策との関連、環境教育の位置付け等々について、活発な質疑応答があり、また、文案の修正を求め多くの意見が出される等、熱心な討議が行われた。

また、総会第二日目の午前には、南アフリカ共和国科学者の学術に係る我が国への入国手続きをめぐる従来からの問題について討議が行われ、「科学者の自由交流」の考え方に賛同し、本問題の早急かつ実質的な解決を望む多数の意見が述べられた。

なお、第二日目午後には、「学術の国際化への対応」というテーマで、活発な自由討議が行われた。

## 『史林』投稿規定

本誌の投稿規定は次の通りです。

◇資格 本会会員であること。

◇投稿受付原稿の種類、長さ

◇論説 四〇〇字詰八〇枚以内

◇研究ノート 四〇〇字詰五〇枚以内

◇研究動向 四〇〇字詰五〇枚以内

◇書評 四〇〇字詰二〇枚以内

◇紹介 四〇〇字詰三枚程度

◇論説には四〇〇字以内の「要約」と「英文要約」を添付のこと。

◇研究ノート・研究動向・書評には、「欧文タイトル」のみ添付のこと。

◇注は各章末に入れること。

送り先 史林編集委員会

〒六〇六 京都市左京区吉田本町

京都大学文学部内

## 御注意

図表あるいは特殊活字を掲載する場合には、その印刷経費の一部を負担していただくことがあります。

## 編集後記

今夏は例年のない猛暑でしたが、会員の皆様いかがお過ごしでしょうか。やっと秋らしくなってきたところで、第七三巻五号をお届けします。

京大文学部に眠っていた明代の史料を「発掘」した谷井論説、鎌倉時代政治史に新しい視角をもって迫る南論説、一六世紀ポーランドの「異端者の避難所」としての特質の要因を解明した小山論説、そして長年の御研究に基づく説得力あふれる林研究ノートとすぐれた論文が目白押しです。また書評、紹介も多く、バラエティに富んだ内容になりました。御味読ください。(圭)

一九九〇年八月五日印刷 定価二二〇〇円  
一九九〇年九月一日発行 送料五二〇円

史林 第七三巻第五号(通巻第三三六号)

京都市左京区吉田本町  
京都大学文学部内

発行人 史学研究会

振替京都七二一五五番  
理事長 竺 沙 雅 章

印刷所

京都市下京区七条御所ノ内中町五〇  
中村印刷株式会社

# THE SHIRIN

or the

## JOURNAL OF HISTORY

---

Vol. LXXIII No. 5 September 1990

---

### CONTENTS

#### Articles :

- TANI Toshihito: A Study of the Gai-piao System  
in the Ming Dynasty ..... ( 1 )
- NAM Ki Hak: The Mongol Invasion and the  
Kamakura Bakufu..... ( 40 )  
—The Character of Countermeasure—
- KOYAMA Satoshi: The Conclusion of the Confederation of Warsaw... ( 80 )  
—The Legal Foundation of the Religious Toleration  
in the Sixteenth-Century Poland—

#### Note :

- HAYASHI Minao: Tribe Signs of the Liangzhu  
Culture and the Dawenkou Culture ..... (116)

#### Book Reviews :

- TSUJIMOTO Masashi, *A Study of the Early Modern History  
of the Thoughts of Education: the Origin of the Theory  
of the "Official Education" in Japan*  
(FUJIMOTO Masahiko, KATSURAJIMA Nobuhiro)..... (135)
- NAKAMURA Mikio, *Das Denken und die Bewegung der  
Nationalsozialistischen Deutschen Arbeiterpartei*  
(HARADA Kazumi) ..... (142)
- John Wilkinson, Joyce Hill and W.F. Ryan eds.,  
*Jerusalem Pilgrimage, 1099-1185* (ODA Masayasu) ..... (148)

#### Miscellaneous :

---

*Published*

*by*

THE SHIGAKU KENKYUKAI

(*The Society of Historical Research*)

Kyoto University, Kyoto, Japan

ISSN 0386—9369